

終戦記念日～私から平和を創設する～

本日で第二次世界大戦、大東亜戦争敗戦から65年がたちました。
あまりにも恵まれた今日の発展を見ると我が国の歴史、親の世代が負ってきた苦勞があらためて今日の私たちの繁栄を守ってくれたものと実感します。

現在の日本領土から遠く離れた地で戦い散った人々、空襲によって焼かれた人々、
沖縄での壮絶なる本土防衛で散った人々、非人道的な原子爆弾で亡くなった人々、
そして今もその後遺症に苦しむ人々、子孫である私たちのために命を投げ出した人々に、
それぞれの今生をささげてくれた先人たちに現在を生きる私たちが、
想いを馳せるとただひたすらに「感謝」することしかできません。
戦争の原因を探っていくことは、今後戦いを起こさせないようにする非常に大切なこと
あります。
しかし、今日は多くの無念と正義のために感謝をし、次の時代に向けて、今を生きる私
たちの志を心に刻む祈念の日であります。

私たちは日ごろから「世界平和」といいますが、願うのみでは平和は持たされません。
イマニュエル・カントは著作「永遠平和のために」の中で平和状態は「創設」されな
ければならない、平和はつくり、維持されるべきものと説いており、それが今日の国際連
合の創設に至ったといわれています。

戦争行為は国家、あるいは社会共同体が行う行為ですが、
国家、社会共同体は個々の人間で構成されているという当たり前のことを忘れてはならず、
この人間とはほかでもない私たちであることに改めて気がつかなければなりません。
世界全体の平和を創設することは元をただせば私たちの仕事であるのです。
人はそれぞれに正義を持って生きており、中にはぶつかり合うこともあうでしょう。
生まれた瞬間から平等な機会ではないことも、競争が必要なことも知っています。
だからこそ平和状態の創設のために社会は努力しなければならないのです。

現代社会の平和とは戦争だけを指すわけではありません。
日々巻き起こる子殺し、親殺しにみられる荒廃した家庭、他者への思いやりを失った身勝
手な犯罪、社会問題を列挙すれば暇がないほど日本という国の中だけでも人間が生存して
いく環境は決して平和なものではありません。世界に目を転じれば貧困や飢餓、民族対立
や伝染病などあまりにも多くの災厄と不条理に満ち溢れた現実があふれています。
世界の平和とは国家も個人も含めて維持していかなければならないと信じています。
これは人類の課題なのです。

本年は安全保障条約節目の年ですが、人間にも安全保障が必要であり、
国家安全保障も人間そのものの安全保障の中にあるといっても過言ではありません。
その時、私たちが出来ることはおそらく無限にあるでしょう。

喜んで命投げ出してくれた先人、戦火に命を散らせた人々、彼らの屍の上に今の私たちが
あることを忘れません。

この終戦記念日に合わせ、今を生きる一人の青年として、
私たちのために礎となってくれた多くの人々に合掌します。

私はこの国に生まれることが出来て本当によかったと心から感謝します。

戦った歴史をしっかりと記憶にとどめ、今を生きられることにひたすら感謝し、
未来の平和を私にできることからつくりあげてまいります。

陽は、今を生きる青年が必ず昇させます。

今を生きる日本国の青年の一人として

平成22年8月15日

公益社団法人 日本青年会議所
第59代会頭 相澤弥一郎